

現代統合医療におけるアーユルヴェーダの可能性 - Integrative Medicineの理念と多職種連携の現場から -



伊藤 京子

Kyoko Ito

名古屋大学大学院医学系研究科
総合診療科 客員研究員
(神宮前統合医療クリニック)

【背景と目的】

演者は Andrew Weil 博士が 1994 年にアリゾナ大学に設立した Andrew Weil Center for Integrative Medicine (AWCIM) のフェローシッププログラムを修了した。AWCIM は Integrative Medicine を「最善の西洋医学と、証拠に基づく補完的アプローチを統合し、患者を心身霊の全体として診る医療」と定義し、アーユルヴェーダを中医学・手技医学とならぶ「Traditional Whole Systems of Healing」のひとつとして正式に組み込んでいる。アーユルヴェーダが古来より実践してきたプラクティティに基づく個別化・全体論的医療観は、この理念と本質的に通じるものであり、現代医学との学術的架橋が求められている。

【多職種連携の実践】

名古屋大学総合診療科は 2012 年、医師・漢方医・臨床心理士・ヨガ療法士・鍼灸師・アロマ療法士・管理栄養士・運動療法士からなる学際的統合ヘルスケアチームを結成した。ラウンドテーブルディスカッションを核とした協働診療モデルのもと、現代西洋医学では対応が困難な慢性・機能性疾患に対して各専門家の視点を統合したアプローチを実践してきた。この経験は、アーユルヴェーダが本来もつ全人的医療観を現代の多職種連携という形で具現化する試みでもあった。現在は統合医療クリニックにおいて、生体情報解析および遺伝子多型解析に基づく精密栄養評価を活用しながら、アーユルヴェーダ的な全体論的視点を個別化診療に応用している。

【考察と結語】

Weil 博士の Integrative Medicine 概念とアーユルヴェーダの全体論的医療観は、個別化・患者中心・心身統合という点において本質的に通じる。多職種協働モデルに現代の生体科学・精密栄養学を接続した臨床実践は、アーユルヴェーダの知恵が現代科学と対話しながら根づくための一事例として、東西医学の架橋に資するものと考えられる。

キーワード：アーユルヴェーダ、統合医療、Integrative Medicine、Andrew Weil、精密栄養、多職種連携、個別化医療

略歴

2001 年東海大学医学部卒業・医師免許取得。総合診療・家庭医療研修を経て、2006 年名古屋大学医学部附属病院総合診療科医員、同年名古屋大学大学院医学系研究科総合診療医学専攻。2008 年アリゾナ大学統合医療フェローシッププログラムに参加、2010 年修了。同年より名古屋大学医学部附属病院研究員として統合ヘルスケアチームに所属。2021 年より子どもの心身医療にも携わり、現在、名古屋大学大学院医学系研究科総合診療医学客員研究員、および神宮前統合医療クリニックにて統合医療を実践。

所属団体等

日本プライマリ・ケア連合学会、日本抗加齢医学会、
NPO 法人日本ホリスティック医学協会、日本産業医学会、
日本人間ドック学会

資格・肩書等

医師免許、日本医師会認定産業医、日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、
日本抗加齢医学会専門医、米国ヨガアライアンス認定 RYT500